



いずみ

No.50

創刊50号記念特集

街角の美を守ろう

(題字 國松 明日香氏)

自作自選 20



《凹みスタディ》

谷口 顕一郎

(2ページに「作者の言葉」)

自作自選 20 作者の言葉

凹み（路面、壁面のひび、破損個所など）というものをモチーフに作品を制作しています。見逃してしまいがちですが、凹みの形そのものを取り出してみると奥深さや愛嬌のようなものさえ感じてしまいます。まだまだこの世界には想像もつかない形をした凹みがたくさんある、そういう

った思いが制作の活力源になっています

（谷口顕一郎＝2014年第1回本郷新記念札幌彫刻賞受賞）

タイトル：「凹みスタディ

—札幌市中央区南1条西9丁目—

収 蔵： OLOR VISUAL 財団
(バルセロナ・スペイン)

制作年： 2011年

素 材： PVC

サイズ： W17×D26×H26 cm

連載 宮の森の四季 20

本郷新記念札幌彫刻美術館

《彫刻美術館と子どもたち》

業務係 大場 裕子

この度は、いずみ第50号刊行おめでとうございます

2011年には「第3回さっぽろ環境賞特別賞」を受賞されるなど、ボランティア活動もさることながら、鑑賞・調査研究にと独自の展開を遂げられるパワーには敬服いたします。

冬を迎える彫刻美術館の庭園には、いつものように本郷新のブロンズ像が佇んでおり、葉を落とした白樺の木が一層季節を深めます。

特に今年は、たくさんの小学生の学習の場として利用され、実際に作品の制作に参加し、作家との交流も深めました。

また、近隣小学校の総合的な学習の時間で「子ども学芸員のギャラリートーク」への協力も行いました。

子どもたちが本館・記念館の作品について学習した内容をそれぞれ解説し、保護者をお招きして成果のお披露目となりました。

彫刻美術館では次世代を担う子どもの育成を目標に全職員の知恵を結集して、学習や講座、ワークショップなどの充実を図ってきました。

子どもたちが気軽に美術館を訪れ、本郷新をはじめとした多くの作品にふれ、より豊かな心が育まれることを願っています。

会報「いずみ」50号に寄せて

会 長 橋本 信夫

会報「いずみ」が創刊以来50号を重ねるという嬉しい節目を迎えた。よくぞここまでという思いがする。「3号雑誌」という言葉もあり、いつまで続くかという思いが頭をよぎったこともあったが、幸い、3カ月ごと年4回の発行ペースを守り通している。

1981年6月、札幌彫刻美術館の開館と同時に市民による支援団体として発足した友の会だったが、会の活動が美術館と表裏一体の関係にあり、会の運営は美術館主導で行われていたのが実態だった。2002年になって多角的な視点から会の活動方針が論議された結果、美術館支援にとどまらず、パブリックアートとして市内に散在する野外彫刻を対象にした彫刻鑑賞、学習、清掃、保全など地域に密着した実践活動にも幅を広げるため、会の運営をそれまでの美術館主導から自主運営組織に切り替えた。

この結果、会員相互の親睦、情報交換、並びに会の活動を広く市民に知ってもらうため会報の発行が決まり、編集委員会が設けられ、この年9月、ついに会報「いずみ」の誕生となった。

創刊当時は身近な彫刻家や会員に原稿を依頼していたが、号を重ねるにつれ執筆者の顔ぶれも多彩になり、内容の一層の充実が図られるようになった。編集には当初、橋本ほか会の役員を中心にした編集委員のメンバーが携わったが、A4判6ページ、400

部を二人の担当者が家庭用プリンターで細々と印刷する状態だった。しかし、しだいにページ数と発行部数の増加が続き、6号以降では発行部数が1000部を数える事態となり、毎号、担当者は印刷と郵送作業に追われることになった。

友の会の会員はおおむね200人前後である。会員数に比して発行部数が極端に多いのは、会報は会員に情報を伝えるだけでなく、会の活動を出来るだけ多くの市民に知らせ、私たちの彫刻に対する思いを理解してもらい、さらに賛同者を増やしたいからである。

幸いにして会報を介して野外彫刻に対する会の取り組みや姿勢、活動ぶりが多くの人に周知されるようになり、市民のみならず、道内外の読者からも応援や激励の声が届き、会員の結束が一層深まることとなった。中でも、2011年に受賞した「第3回さっぽろ環境特別賞」は地道に進めていた彫刻清掃保全活動が会報などを通して広く認められた賜物と感謝している。

2010年4月発行の31号からは専門の印刷会社委託となり、レイアウトを大幅に変え、8ページ、カラー版の現在の形になり、50号記念を迎えた。これを節目に、会報が「友の会ホームページ」と共に彫刻美術館、市民と会員をつなぐ大事な媒体として今後一層の役割を果たすよう期待してやまない。

会報編集者対談

「いずみ」50 号の軌跡と展望を語る

会の活動をより多くの人に



創刊号



「いずみ」の歩みを振り返る高橋さん(右)

友の会の会報「いずみ」が今号で創刊以来 50 号に到達した。2002 年 9 月発行から 12 年。これまで年 4 回の発行ペースを厳守、休刊することなく続いた会報作りの思い出、これからの会報のあり方などを草創期に何度も編集を手がけた高橋淑子さんと語り合った。

(現編集担当・大内和)

大内 会報「いずみ」の創刊は1981年の友の会の発足より21年も遅れての創刊ですが、高橋さんはこのころからの会員ですね。会報発行のころの友の会の様子はどうだったのですか。

高橋 友の会も最初は彫刻美術館の主導で活動していたようですが、このころになって、自主独立という形で主体的に活動をはじめました。そこで会の存在や活動ぶりを会員はもとより、外部の人に知ってもらいたいというような思いを橋本会長が提唱して会報の発行となったのですね。

大内 昨年、会員の松原安男さんが創刊から 30 号までを 1 冊にまとめて製本して下さった「いずみ」の合本がありますが、第 1 号を見ると大きさは今と同じ A4 判サイズで、表紙には会のシンボルともいべき大通公園にある本郷新の《いずみの像》の写真が飾られています。ほかに、会長の抱負や短いながら学芸員へのインタビュー記事もあり、6 ページ建て。2 号になると彫刻家の國松明日香さんのエッセイ、いまでも続いている友の会の日帰りバスツアーの様子を 10 人の感想と 9 枚のカラー写真を使って載せています。今見ても編集の意欲が感じられます。会報の編集はどのように行っていたのでしょうか。

高橋 当時は友の会の役員が交代で編集していましたね。バックナンバーをみると編集後記にそれぞれ担当した方の名前が入っていて、懐かしいです。各号の内容は今と同じように役員会で議論して決めて

いました。手分けして原稿を依頼していました。だいたい断られたことはなかったですね。担当者は慣れないワードと取っ組み合いで紙面づくりをしていました。

大内 私は 11 号からお手伝いするようになったのですが、手作りならではの今では考えられないような苦労がありましたね。

高橋 最初の頃の印刷はすべて家庭用プリンターで刷っていました。このころも 1000 部ほど印刷していましたから、私がカラーの表紙を引き受けた時はインクはすぐ無くなるし、プリンターが故障するなど思わぬハプニングに泣かされました。ページの下のページ番号を付けられず、別に数字を印刷した紙を張り付けたこともあり、まさに橋本会長がいう、「切った、貼った」の苦労をしながら会報作りをしていました。

大内 高橋さんらが編集していたころの会報を見ると彫刻美術館への注文、提言といった内容の記事も目につきます。なかなか積極的だったようですね。

高橋 やはり会の活動が美術館から自立して意欲的になっていったせいでしょうか。美術館を支援する思いが、つい美術館に耳の痛い記事になったり、時には美術館を怒らせることもありました。

大内 「抜海の目」というコラムもあって、結構、辛口の見解も載っていました。

高橋 「抜海」は釣り好きだった本郷新の釣り人としての名前だったそうで、匿名のコラムでした。ほかに長

く続いた「ギャラリー訪問」もあり、内容も豊富だったですね。

大内 私がタッチしたころは札幌市の市民活動センターの印刷機を使っていましたが、それでも苦労は尽きなかった。



創刊30号記念

高橋 A4の紙面を倍の大きさのA3判の紙に裏表4面を刷り、それを順番に折り込むので帳合いに苦勞しましたね。

大内 31号から現在の印刷会社さんで印刷してもらいようになり、そうした苦勞から解放され、飛躍的に素晴らしい形の会報になりました。

高橋 紙質も格段によくなり、何とんでも本格的な印刷でどこへ出しても恥ずかしくない会報になりましたね。

大内 手作り時代には何ページにでも増やせたので、最高の時は確か22ページにもなったことがありました。半面、今はページ数が固定されていて簡単に増ページできない悩みがあります。

高橋 時には「こんなに上質の紙で立派な会報だけれど、予算が大変ですね」と心配されることもあります。

大内 少ないスペースの中で、どれだけ充実した内容を盛り込むことができるか。これがこれからの会報作りの課題ではと思うのですが…。

高橋 今、私たちで取り組んでいる劣化コンクリート彫刻保全運動の研究成果を専門家の立場から連載の形で詳しく紹介するような記事があってもいいように思いますね。

大内 今の形の会報になってちょうど20号になるわけですが、編集をしていて最近強く感じるのはマンネリになっていないかということです。もっと斬新な企画、レイアウトがないのかと悩みます。

高橋 会報の役目はやはり会の活動を広く知ってもらうことだと思います。会報を読むために入会したなんて人が出てくれればいいです。それと、会報とは直接関係ないのかもしれませんが、友の会も発足以来今年で34年、自主的運営になって13年、そろそろ会の歴史をまとめる「友の会史」発行を考えたいですね。

大内 確かに会の歴史をまとめておく必要があると思います。会報とともに新たな課題ですね。今日は貴重なご意見ありがとうございました。

会報題字 いずみ 秘話

彫刻家・友の会顧問 國松 明日香

今から12年前の夏、編集委員会で会報のタイトルが「いずみ」に決まり、橋本会長からの依頼で、題字を担当することになりました。たどたどしくも味のある父（國松登氏）の字、大胆な性格そのものの流政之先生の字など作品同様、文字も書く人の人柄が表れます。私自身もいい字が書けるような人になりたいと思うのですが、なかなかそうはいきません。師・舟越保武先生や千野茂先生の字はとても風合いのある大好きな字です。やはりそれぞれ人柄が良く表れています。確か本郷新の作品のタイトルは《泉》という漢字ではなかったかと思いましたが、ひらがなでお願いしますということでした。漢字に比べ、ひらがなは難しいと思いました。半紙を前に格闘すること小一時間。今でも「題字・國松明日香氏」を見るたびに冷汗をかきます。50号を機に題字を変更、たとえば様々な彫刻家の題字でリレーをしていくのはいかがでしょうか？

友の会の彫刻清掃活動にはいつも感心させられています。心から敬意を表します。今後、私の作品が、鳥の糞などで汚れている時には、ぜひ友の会の皆様に清掃をお願いできればと思います。これからの皆様のご活動に期待致します。（談）

アンケート 会報「いずみ」はどう読まれている？

毎号楽しみに読む 74%

会報「いずみ」アンケート結果

「作家インタビューあれば…」の声も

友の会は会報「いずみ」が今号で50号に達したのを機会に読者アンケートを行った。前49号発送時に設問と回答用ハガキを同封し、答えてもらった。77人から回答があり、内訳は会員39、会員外38とほぼ同数だった。

設問	会員 39				会員外 38				合計				77
	A	B	C	無	A	B	C	無	A	B	C	無	
2	33	5	1	0	24	12	0	2	57	17	1	2	77
4	2	34	2	1	3	33	1	1	5	67	3	2	77
5	36	1	0	1	33	3	0	2	69	4	0	3	76
8	18	11	8	2	8	27	3	0	26	38	11	2	77
9	2	33	0	4	5	29	0	3	7	62	0	7	76

会報がどの程度読まれているかを聞いた設問では「毎号読んでいる」(57)「時々読む」(17)とほとんどの人が読んでいた。字の大きさが適当かどうかには67人が「ちょうど良い」と答えている。

よく読まれている記事を尋ねた設問では「友の会ニュース」(43)「寄稿・レポート」(34)「自作自選」(33)「風見鶏」(31)「宮の森の四季」(30)の順位となった。また、会報が会の活動に役立つかどうか(設問⑤)聞いたところ、69人が「役立つ」と答え、会報発行の目的は達せられているようだった。

一方、友の会のホームページ(設問⑧)は「見ている」が26、「見っていない」が38と「見っていない」派が多かった。また、会の活動については「このままで良い」が大多数となった。

最後に会報に対する意見を自由に書いてもらった中からいくつか挙ると。「読みたい記事」として「作家のアトリエ訪問」「彫刻家インタビュー」のほか「本郷作品の紹介」「市内の彫刻紹介」を挙げる人が目立った。会報編集に対する具体的な意見としては「写真の大きさにメリハリを」「鮮明な写真を」「字は少なく、写真を多く」などの注文があった。また、「カタカナ語の多い記事は高齢者には理解できない」「会員情報の充実」「もっと会員の活動を知りたい」との指摘もあった。このほか「アート紙の素敵な会報で、それだけ費用が掛かるのでは」「紙質良過ぎる。省費用資源節約型で」「どの記事も興味深く、内容充実している」との声もある。「文化都市札幌にカツを入れてほしい。文化芸術ゾーンの再開発、美術館同士の連携、アクセスの悪さなど不備が目立つ。観光ツーリズムの研究をしては」との提案もあった。(大内和)

◇アンケート設問◇

- ① 略
- ② 会報をA 毎号読んでいる B 時々読む
C 読まない
- ③ (略)
- ④ 会報の文字はA 大きい B ちょうど良い
C 小さくてもよい
- ⑤ 会報は友の会の活動を知るのに
A 役に立つ B あまり役に立たない
- ⑥ 略
- ⑦ 略
- ⑧ 友の会のHPを A 見ている B 見ていない
C パソコンがない
- ⑨ 友の会の活動 A もっと B このままで

友の会主催「空知の彫刻と炭鉱遺産を巡るバスツアー」

晩秋の空知路に彫刻芸術を探勝

赤平炭鉱遺産に往時しのび

秋の日帰りバスツアーが10月15日、会員、一般38人が参加して行われ、岩見沢、赤平など空知の彫刻を見て回ったほか、炭鉱遺産も見学、充実した一日を楽しんだ。

この日は前日の台風による荒れた天気が回復、文字通りの台風一過の好天に恵まれた。市内の公園に多数の彫刻が置かれている岩見沢市では



中央公園、こぶし公園で朝倉響子《友だち》、鈴木吾郎《子どもの情景》、山田吉泰《母と子》などを見て回った。主要な作品の前で、会員の高橋大作さんから彫刻作品の汚れや破損状況などの説明を聞き、野外彫刻の保存管理の難しさをかみしめた。また、赤平市では



流政之の作品が点在するエルム高原を訪れ、ちょうど見ごろの紅葉をバックに心行くまで彫刻の美しさを味わった。最後に、かつて東洋一と言われた住友赤平炭鉱選炭工場跡を見学、巨大な掘削機などに往時の石炭産業をしのんだ。

2015年友の会新年会

- ◇日時:2015年2月22日(日)11:00から
- ◇場所:宮の森ミュージアム・ガーデン
(中央区宮の森2条11丁目2-1 ☎011-612-3500)
- ◇会費: 4000円(当日会場で受け付けます)

コンクリート彫刻実態調査

札幌市内22カ所ほぼ完了

今年度の重点活動の一つだった札幌市内のコンクリート彫刻の実態調査が11月までにほぼ終了した。近く調査結果をまとめ、札幌市などへの彫刻保全要請の資料などとして活用する。

調査は本年度、市の助成金を受けて行うもので、市内各地に点在する35点のコンクリート彫刻について実際にメジャーを駆使して全サイズを測定、さらに破損、汚れの状況などを細



札幌ドームで端睨「完全なる場」を測定する調査メンバー

かく点検して調査カードに記入した。また、それぞれ作品の前後、左右、さらに破損状況の記録写真も撮影した。

調査に先立ってコンクリートに詳しい会員の高橋大作さんを講師にコンクリートの基礎知識についても勉強、「ヘアーラック」「ポップアウト」などの専門用語もマスターして調査に臨んだ。

事務局日誌

▼9月28日＝中島公園鴨々川清掃に参加、彫刻の清掃も▼10月2日＝市文化庁訪問(会の活動近況報告)▼同日＝彫刻学習会(JRタワーの彫刻見学)▼9日＝定例役員会(エルプラザ)会報50号企画、彫刻実態調査日程など▼15日＝日帰りバスツアー(岩見沢・赤平方面)▼28日＝羊ヶ丘展望台クラーク像清掃▼10月中旬から5班に分けて市内コンクリート彫刻実態調査実施▼11月13日＝定例役員会(エルプラザ)新年会日程ほか▼27日＝彫刻学習会(北大学術交流会館)野外彫刻研究会の活動状況▼12月11日＝定例役員会(エルプラザ)新年会企画ほか

編集後記

▼会報「いずみ」がとうとう創刊50号を発行することができた。創刊号が2002年発行だから12年かかった。年4回の発行を厳守しての成果。先輩編集者に感謝▼50号としてはささやかな記念特集となったが、60号、70号への足掛かりになれば、の思い▼会報アンケートありがとうございました。マンネリに落ちないよう自戒を期して。新しい編集企画の提案、大歓迎。

(大内)

札幌彫刻美術館友の会

会報「いずみ」 No.50

2015年1月1日発行

発行人 橋本 信夫

編集者 大内 和

(札幌市清田区清田5-4-6-30)

011-884-6025

印刷 山藤三陽印刷

本郷新記念札幌彫刻美術

館行事予定

会報「いずみ」50号 目次

自作自選20《凹みスタディ》	谷口顕一郎	表紙
作者の言葉		2
宮の森の四季20「彫刻美術館と子どもたち」	大場裕子	2
風見鶏「会報「いずみ」50号に寄せて」	橋本信夫	3
会報編集者対談「いずみ50号の軌跡と展望」	高橋淑子・大内和	4
レポート「アンケート・会報はどう読まれている？」		6
友の会ニュース		7
空知の彫刻と炭鉱遺産を巡るツアー	コンクリート彫刻実態調査事務局日誌、目次、美術館行事予定ほか	8

本館

■コレクション展「彫刻のできるまで一本郷新の頭の中」

開催中～4月19日(日)

本郷新の彫刻作品とそれに関連するデッサンやエスキースを比較しながら、完制作に至るまでの彫刻家の思考を探る試み。

■同時開催

「In My Room」2012年からスタートした若手作家の作品紹介。

梶田みなみ
佐々木仁美

開催中～2月15日(日)
2月17日(火)～4月19日(日)

■さっぽろ雪像彫刻展2015

2015年1月23日(金)～25日(日)

さっぽろ雪まつりに協賛して、市内の造形作家、美術系学生が雪像彫刻を制作する

記念館

■本郷新とレリーフ

開催中 ～2015年4月26日(日)

彫刻や絵画とは異なる本郷新が手掛けたレリーフ作品を紹介

本郷新記念札幌彫刻美術館

札幌市中央区宮の森4条12丁目 ☎011-642-5709

友の会ホームページ公開中です！ご覧ください

昨年11月でアクセス数 1万回超す

<http://sapporo-chokoku.jp>